

研究タイトル：

文法習得と文理解・文産出活動との関係



氏名： 高桑潤 / TAKAKUWA Jun E-mail： takakuwa@nagano-nct.ac.jp

職名： 准教授 学位： 修士

所属学会・協会： 大学英語教育学会 全国英語教育学会 日本教科教育学会

キーワード： 文法学習 文理解 文産出 宣言的知識 手続的知識

 技術相談
 提供可能技術：

- ・
- ・
- ・

研究内容： 文法習得と文理解・文産出活動との関係

文法学習と文理解活動、文産出活動との関係を分析し、効果的な文法教授・学習方法を構築することを最終的な目的としている。

第二言語習得研究においては、言語に関する知識は、文法それ自体に関する知識(言語知識)と、その知識を読む・書く・聞く・話す際に活用するための知識(心理言語知識)とに分けて考えるのが一般的である。また、第二言語習得研究においては、文法の習得に関し、言語知識と心理言語知識の両方を獲得することを考察対象としている。そして、文法習得に対して文理解練習と文産出練習が果たす効果について、議論が活発に行われてきた。これら第二言語習得研究の研究成果を日本の英語教育に生かすには以下 3 つの点に注意する必要があると思われる。まず、これらの研究の多くは読む・書く際ではなく話す・聞く際に働く心理言語知識の獲得に焦点を当てている。それに対し、日本の英語教育において文法学習のつまずきを問題とする場合、それは読む・書くレベルでのつまずきを指すのが一般的である。2 つ目の注意すべき点は、第二言語習得研究において扱っている文法は単純な文法がほとんどであって、複雑な文法の習得過程には焦点が当てられていないということである。例えば、関係詞の場合、関係詞の知識すなわち言語知識をすでに獲得した学習者がどのようにして話す・聞くために必要な心理言語知識を習得するのか、という点に焦点が当てられている。そして、それらの心理言語知識を学習者が獲得するためには文理解練習と文産出練習がどのように貢献するのか、ということが考察されている。これに対し、日本の英語教育の現場では、関係詞のような複雑な文法のつまずきは、話す・聞くレベル以前に、読む・書くレベルですでに問題となっている。つまり、複雑な文法に関しては、言語知識の学習がどのように達成されるのかということも考察すべき問題となっている。3 つ目の注意すべき点は、英文和訳と和文英訳の扱い方である。これらは日本の教育現場で今なお活発に行われている活動である。一般的に、英文和訳は文理解活動、和文英訳は文産出活動のそれぞれ一種として考えられている。しかし、これらは第二言語習得研究における文理解練習、文産出練習と一致しない部分もあり、その違いを認識しつつ、文法教授・学習方法を構築することが必要である。

以上のことを踏まえ、複雑な文法学習のつまずきを改善するための文理解練習(英文和訳練習)と文産出練習(和文英訳練習)を確立する。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	